

『防災推進国民大会 2018』においてポスター発表を行いました（2018/10/13-14）

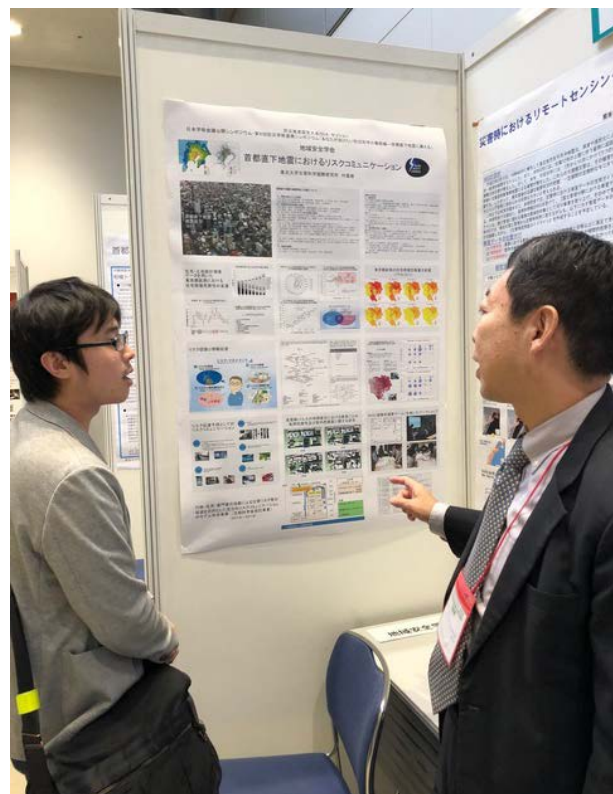
テーマ：リスクコミュニケーション
場所：東京ビックサイト（東京都江東区）

10月13日から14日にかけて、防災推進国民大会（ぼうさいこくたい）2018が開催されました。大規模災害の発生が懸念される我が国では、国民全体で防災意識を向上させることが急務となっています。ぼうさいこくたい 2018 において、日本学術会議防災減災学術連携委員会と防災学術連携体が主催するセッション「あなたが知りたい防災科学の最前線-首都直下地震に備える-」（市民公開シンポジウム）が行われ、当研究所の村尾修教授（地域・都市再生研究部門 国際防災戦略研究分野）が、地域安全学会の代表として「首都直下地震におけるリスクコミュニケーション」と題してプレゼンテーションおよびポスター発表を行いました。リスクコミュニケーションとは、行政・住民・専門家の協働による災害リスクの低減を目的としており、あるリスクについて関係者間で対話や意見交換を通じて意思疎通をはかり、相互理解を深めることで信頼関係を構築していくものです。

村尾教授は、東京都区部の住宅倒壊危険量の変遷、地域の建物倒壊危険性に対する住民の意識構造に関する研究、リスク・マネジメント、リスク伝達手段などを踏まえ、震災時におけるリスクコミュニケーションの重要性について参加者に分かりやすく解説しました。また、地域安全学会が取り組んでいる「行政・住民・専門家の協働による災害リスク等の低減を目的とした双方向リスクコミュニケーションのモデル形成事業」についても紹介しました。防災について強い関心をよせる市民の皆さまとの意見交換により、今後の地域の防災力強化が必要なことを改めて実感しました。引き続き、課題解決に取り組んで参ります。



セッション会場の様子



ポスター発表の様子